

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第五小学校 第4学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none">漢字小テストの結果、漢字学習に対する意欲は高い。1学期に行った物語文で主人公の心の変化を捉える学習では、言語にかかわるどの文章からそれが分かるのかを見つけることに課題があった。	<ul style="list-style-type: none">モジュール学習を中心に、漢字の形を正しくとらえるよう指導する。また、定期的に漢字小テストを実施することで、学習する習慣を身に付けつける。平均正答率90%を目標とする。児童同士の意見交流を学習過程に複数回設定することで、自分の意見を持ちやすくする。友達の見解を聞いた上で自分の考えに近いものを見つけられるようにし、読むことでのテスト等の平均正答率80%を目標とする。
算数	<ul style="list-style-type: none">単元テストの結果、折れ線グラフに表すことや、二次元表に整理することが定着している。単元テストの結果、除数が2けたのわり算の理解は二極化の傾向がある。主な誤答の原因は、九九、かけ算、ひき算などこれまでの学習の定着状況にばらつきがあることと分析する。	<ul style="list-style-type: none">これまでに学んだ四則計算の復習を定期的に行う。3学期時点では、除数が2けたのわり算の正答率70%を目標とする。問題文を図で表す、文章の大切な部分に線を引くなどの方法を繰り返し指導し、問題場面を理解する力を伸ばす。(文章題の正答率70%を目標とする。)
社会	<ul style="list-style-type: none">1学期の授業の様子から、折れ線グラフの資料の読み取に課題がある。1学期の授業の様子から、自分の身の回りの施設や設備に興味・関心をもったり、分からないことを調べたりしようとする意欲に課題がある。	<ul style="list-style-type: none">授業でグラフを取り扱う場合は、全体指導後にペアで何のグラフなのか、縦軸・横軸は何を表しているのかを確認し合う活動を取り入れる。(資料の読み方がわかる児童9割を目標とする。)タブレット端末を活用して、リアルな映像や資料を児童が身近に捉えられるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none">1学期の授業の様子から、問題解決の過程で、学習問題を立てることに課題がある。1学期の授業から、実験の結果から考えられる考察や結論を書くことに課題がある。	<ul style="list-style-type: none">学習問題の流れ(思考の流れ)に見通しを持ち、導入の教材を身近なもの、既習に合うものにしていく。(学習問題を立てられる、根拠をもって予想を立てられる児童7割を目標とする。)実験の結果、考察、結論の違いを明確にして指導する。またモデル分けや考える視点についてまとめたプリントを提示し、いつでもそれをもとに考えられるようにする。(考察や結論を書ける児童8割を目標とする。)